

「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 2 年 6 月 15 日

事業名称		ならはし児童館運営費[ならはし児童館運営事業]										
予算科目	款	3	民生費	項	2	児童福祉費	目	6	児童館費	事業番号	1	
事業の種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)											
担当部署・課長名	青少年課 青少年育成係					課長名	新海隆弘					
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号	2 - 4			
【施策名】 児童福祉の推進								総合計画書(ページ)	59			
この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 周辺に住む0～18歳未満の乳幼児・児童とその保護者。					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 市内の0～18歳未満の乳幼児・児童数 (令和2年3月1日現在)						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] ①児童館を、児童が遊びや行事を通じて成長できるようにする。 ②乳幼児が安心して遊び、保護者同士の交流・情報交換ができるようにする。					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) ①児童の来館者数(延べ人数) ②乳幼児・大人の来館者数(延べ人数) (1)乳幼児 (2)保護者						
	③ そのために何をしましたか。 ①児童の居場所の提供。児童向け行事の開催。ランドセル来館の実施。 ②乳幼児の遊び場、保護者同士の交流・情報交換の場の提供。乳幼児親子向け行事開催。1歳・2歳児親子サークルの実施。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ①年間実施回数 (1)児童向け行事 (2)ランドセル来館 ②年間実施回数 (1)乳幼児親子向け行事 (2)1歳児親子サークル/2歳児親子サークル						
指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標				
				平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度実績		令和2年度目標		令和3年度目標		
	対象指標	①の数値	人	13,737	13,533	12,531						
	成果指標	②の数値	人	①25,513 ②(1) 887 (2) 903	①23,414 ②(1) 984 (2) 943	①24,739 ②(1) 802 (2) 679						
	目 標	②の目標値										
	目標値設定の考え方											
	活動指標	③の数値	回	①25,513 ②(1) 887 (2) 903	①(1)59 (2) 290 ②(1)14(2)17/22	①(1)47 (2)289 ②(1)19(2)18/0						
3 経費	事業費(実績)		円	16,987,263	16,030,140	15,723,052		※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,310,000 円 時間単価は、4,300 円 で計算してください。 【算出根拠】平成30年度決算数値。 (退職手当組合負担金、共済費も含む。)				
	財源	一般財源	円	16,952,653	14,780,120	13,992,056						
		特定財源	円	34,610	1,250,020	1,730,996						
		(うち受益者負担)	円	34,610	35,020	20,100						
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	1.0	1.0	1.0						
		所要人数(再任用)	人									
		職員人件費(再任用以外)	円	8,253,000	8,244,000	8,310,000						
	職員人件費(再任用)	円										
事業費+人件費		円	25,240,263	24,274,140	24,033,052							
4 環境変化等	(1) 開始年度		51 年度									
	(2) 環境の変化 児童へ健全な遊びを与え、その健康を増進し、又は情操を豊かにするため、昭和51年東大和市立児童館を設置する東大和市立児童館条例が制定された。 通常の児童館運営の外、学童の待機児童対策の一環として平成21年度よりランドセル来館事業を開始し、現在では学童と独立した児童預かり事業として機能している。 また、子育て支援の必要性が高まり、児童のみならず、乳幼児とその保護者を対象にした子育て支援事業についても取り組んでいる。											

事業名称	ならはし児童館運営費[ならはし児童館運営事業]			
担当部署・課長名	青少年	課	青少年育成	係 課長名 石川 博隆

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成31年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について ・参加者不足のため31年度は休止になった2歳児親子サークルの参加希望者から、継続して実施して行ってほしいとの声があった。 （兄弟の下の子が参加することを見据えて。） ・四小ランドセル来館利用者（保護者）から教室以外の場所（校庭等）でも遊べないのかとの声があった。			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）			
	☒ 取り組んだ	取組手法：⑧行事でのボランティア募集		
	☐ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)令和2年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点 行事における補佐としてのボランティアだけでなく、行事の講師としても専門的な知識や経験を持った市民を登用する。			
7 課題	(1)平成31年度に課題とした内容（「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題（3）を転記） ・乳幼児親子向けの事業の企画立案や、相談に対応できる専門的知識、経験を持つ必要がある。 ・児童館に足を運んでもらうための乳幼児親子のニーズの把握。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成31年度に実施したこと。 ・乳幼児親子向けの事業を月2回程度実施した。また、児童館職員が都主催の研修（子育てひろば、中堅児童厚生委員等テーマ別研修）に数回参加し、知識を深めるとともに、外部から講師を招聘し、職員向けの研修会を実施した。 ・来館者との日常会話や行事参加者への簡単なアンケートを行い、ニーズを把握した。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案） ・0歳～の乳幼児が継続的に児童館を利用してもらうための仕組みづくり。 ・四小ランドセル来館事業における教室以外の活動場所の調整。			
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。） 施策名： 児童福祉の推進 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある（事業名： ）			
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など） ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 【取組内容】 ・0歳児でも参加できる乳児向けの行事を実施し、1歳児・2歳児親子サークルへと繋げ、継続的に児童館を利用してもらうための流れを作る。 ・四小ランドセル来館事業における教室以外の活動場所について四小との調整。			
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 ・乳幼児親子が児童館を参加したくなる内容の検討及び実施、または過ごしやすい環境整備。 ・課としての適切な会計年度任用職員（有資格）の採用と配置。 ・四小との使用の可否、活動場所、時間等の調整。			